地すべりボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　柳津地区地すべり対策砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor No.3	調査位置	広島県福山市柳津	北　緯	34° 26′ 34.0499″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和元年 5月15日～ 令和元年 5月20日	東　経	133° 15′ 49.4345″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 20.79m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	0北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総削孔長	16.00m	地盤勾配	48° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D-0型 / エンジン：ヤンマーNFAD8-K型 / ポンプ：東邦製BG-3

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	工学的地質区分名／現場土質名（模様）	工学的地質区分名／現場土質名	色調	風化の程度	変質の程度	破砕度	硬軟・相対稠度	相対密度	記事
	20.49	0.30		表土	茶褐						砂質粘土状を呈する。
1	18.89	1.90		砂質泥岩	茶褐灰	w5	h4		E		やや固結した砂質粘土状を呈する。 原岩組織がわずかに確認できる。
2～6	14.09	6.70		砂質泥岩	茶褐灰～褐灰	w5	h4		E		部分的に硬質な岩片を含むが，全体的に固結した砂質粘土状である。 指圧で粉砕する。 原岩組織や亀裂面を残している。 亀裂面は褐色化している。 深度的に固結度が増し，原岩に近い暗灰色を示すようになる。 GL-3.0～3.5m，4.0～4.25m間，脆弱。
7～8	11.89	8.90		破砕帯	茶褐灰～暗灰	w5	h4		E		風化した短棒状コアと，脆弱で軟質な粘土状コアを繰り返す。 GL-8.8m付近，白色粘土を挟む。 GL-6.7～6.8m間，やや脆弱。
9～10	10.14	10.65		砂質泥岩	暗褐灰	w4	h3		C		コアの外周が認められるが，全体的に脆い。 亀裂面に粘土を挟む。
11～16	4.79	16.00		泥岩	暗灰	w3	h2		B		岩片は比較的新鮮で硬質である。 亀裂が多く短棒状～片状コアを主体とする。 亀裂面には茶褐色の流入粘土が見られる。 GL-12.8m付近，礫状コア，GL-13.9m付近，土砂状コアを挟む。 全体的に土砂化したコアを多く含む。 岩相は泥岩主体で，砂質泥岩を挟んでいる。

標準貫入試験

N値	深度(m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
3	1.15	1	1	1	3		
	1.47	140		80	320		
15	2.15	3	6	6	15		
	2.45				300		
14	3.15	5	4	5	14		
	3.45				300		
11	4.15	3	4	4	11		
	4.45				300		
23	5.15	6	8	9	23		
	5.45				300		
22	6.15	7	7	8	22		
	6.45				300		
50以上	7.15	17	24	9	50	230	
	7.38			30	230		
50以上	8.15	18	28	4	50	210	
	8.36			10	210		
50以上	9.15	50			50	90	
	9.24	90			90		
50以上	10.00	50			50	90	
	10.09	90			90		
50以上	11.00	50			50	20	
	11.02	20			20		
50以上	12.00	貫入不能			50	0	
					0		
50以上	13.00	貫入不能			50	0	
					0		
50以上	14.00	貫入不能			50	0	
					0		
50以上	15.00	貫入不能			50	0	
					0		
50以上	16.00	貫入不能			50	0	
					0		

原位置試験	室内試験	作業日毎の孔内水位 削孔月日	孔内水位 作業後 作業前 (m)	ケーシング下端深度 (m)	孔壁保護 孔径(mm)	種類	実施理由	地下水検層方法（自/波）	保孔管	孔況 削状 コアチューブ・ビット	削孔水・送水量 L/min	排水量 L/min
		5/15		0.00	66	B2	崩壊			W/D	W2/3	0
		5/16		4.80								
		5/17	1.42	10.80							W2/3	3
		5/18	11.08	12.80	66					W/D	W2/4	3
		5/20	12.25	12.80							W2/4	2